

下野市立石橋小学校

1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成
～「主体的・対話的で深い学び」の授業をめざして～

2 研究計画

- (1) 授業の充実を図り、自ら学び解決に向かう態度と能力を育む。
単元の構成や授業展開を見直し、児童が学ぶ必然性を実感し、学習内容の意味や価値を自覚できるようにする。(めあて・振り返り)
- (2) 言語活動の充実を図り、豊かに学び合う集団を育てる。
多様なものの見方や合理的な説明・質疑応答ができるような話合いや言語活動を通して、学び合う集団を育てる。
- (3) 分かる授業、できる授業を展開する。
基礎基本の定着を図り、知識や技能が整理され、問題解決に活用できるようにする。
- (4) 外部講師の活用を図り (S & U コラボ事業等)、研修会の充実を図る。

3 研究内容

(1) 研究の方法

- ① 研究教科を算数とし、学校課題追究のため、授業改善の視点を絞って研究に取り組む。
- ② 低学年・中学年・高学年の3つの部会を設け、児童の発達の段階に即した授業実践を行う。
- ③ 全国学力・学習状況調査・とちぎっ子学習状況調査の調査問題の分析を全教職員で実施し、学年ごとの課題を設定する。共有された授業改善の視点を基に、教師一人一人が日々の授業の質を高める。各自が、自主的公開も含め、研究授業を年間1回公開する。
- ④ 授業検討会を充実させる。
 - ・ 外部講師を招く授業は、学年で事前授業を行い、ブロックごとに授業検討会を開き、研究授業の質を高める。
 - ・ S & U コラボ事業を活用し、外部指導者の指導を受ける。
 - ・ 検討会では、KJ法を取り入れ振り返りを重視する。ワールドカフェ方式で意見を共有し、自由に話し合える雰囲気作りを心がける。



(2) 研究の実際 実践内容 (1月末日までの実施内容)

日時	形態	授業者	教科	授業内容
4 / 5	校内研修	学校課題研修	学校課題について	組織作り
5 / 30	校内研修	学校課題研修	授業研修計画の確認	進め方
7 / 2	共同訪問	木下 恵 佐藤由佳 宮本真帆 相原浩幸 碓井 緑 室井将男	1年 国語 2年 算数 3年 図工 4年 算数 5年 道徳 6年 国語	「たからものをおしえよう」 「たし算とひき算」 「ようこそ、キラキラのせかいへ」 「こわれた電卓」 「航平ノート」 「夏のさかり」
8 / 7	校内研修	学校課題研修	全国学力調査・とちぎっ子学習状況調査分析	
9 / 6	校内研修	学力向上	授業研究の方向性・視点の確認と共有化	
9 / 11	新採研修	天野翔之	3年	外国語活動 「これなあに？」
		倉井寛子	4年	道徳 「ケンくんのこと」
9 / 7・14	自主公開	増渕敦子	3年	道徳 「高橋尚子物語・鬼太郎をかいたゲゲさん」

10/15	S&U 事業	上野琢朗	5年	算数	「単位量あたりの大きさ」 宇都宮大学教育学部 日野圭子教授 下野市教育委員会 岡本直美指導主事
10/17	下地区人権 教育研修	櫻井 光	6年	学活	「インターネット上のコミュニケーション」
10/31	校内研修	学校課題研修 深い学びへとつながる対話のさせ方			
11/7	S&U 事業	黒須 瞳	1年	算数	「たし算」 宇都宮大学教育学部 日野圭子教授
11/28	自主公開	深谷亮太	6年	算数	「場合の数」
11/29	自主公開	椿 恵実	2年	算数	「かけ算」
12/5	自主公開	三浦とも子	つくし	国語	「拗音と拗長音」
12/12	S&U 事業	飯野泰貴	4年	算数	「変わり方」 宇都宮大学教育学部 日野圭子教授
1/23	校内研修	今年度の学校課題の振り返り 研究の反省			
1/24	自主公開	田口今寿美	5年	算数	「四角形や三角形の面積」
		本澤雅恵	たんぽぽ	自立活動	「言葉と仲よくなるろう」
1/28	自主公開	天野翔之	3年	算数	「かけ算の筆算（2）」
1/29	自主公開	高久雄介	すみれ	算数	「数をかぞえよう」
1/31	自主公開	倉井寛子	4年	算数	「立体」

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査の分析を基に、根拠のある授業提案ができた。「つまずき」の原因を考察し、単元構成の見直しに生かした。課題設定では、実践的な場面を想定し、児童が自分の生活とつなげて考えることができるよう工夫をした。その結果、学びへ向かう意欲や態度に向上が見られた。
- ② 「一人一授業」の共通実践の下、互いに日々の授業に課題意識を持って取り組み、多くの授業を参観し研修できた。本年度は、低・中・高のブロック部会にしたことで、お互いの学年や単元の系統性等の理解が進んだ。また、積極的に事前授業をおこない、参観し合うことで、教師の協同性が高まり、互いに刺激し合うことができた。



(2) 研究の課題



- ① 「対話」については、どのタイミングで、どのような形態で行うのが効果的で適切なのかさらに研究が必要である。何のための「対話」なのか、「対話的な学び」が実現している姿はどのようなものかなど、学校全体で意識を共有し、統一した視点があるとよかった。来年度は、「対話」の在り方を重点課題として実践を進めたい。
- ② 小中一貫教育の課題でもある「授業の振り返り」の実践にも意識的に取り組んだが、単元の時間の確保の難しさから、ねらいとのぶれが生じるなど課題もあった。「質の高い振り返り」は「質の高い問い」から生まれるという意識を高め、確実な実践をめざしていきたい。
- ③ ブロックごとの部会を基本として、授業参観体制をとった。少人数のため時間調整は容易だった反面、他のブロックの授業を参観することが難しかった。次年度は、授業公開の曜日や時間を統一するなど、無理なく全クラスの授業参観ができる体制づくりを整えていきたい。
- ④ 授業研修会では、マトリックスシートを使い、参加者全員が考えを発言し熱心に協議ができたが、普段の授業改善にどのようにつなげるかという視点で、振り返りの方法を工夫していきたい。



